

ホットニュース

和牛シンポジウムを新見市で開催！

高齢化、担い手不足に加えて飼料の高騰、牛肉消費低迷など厳しい経営環境のなか、和牛生産者の意欲高揚と和牛生産の振興につなげるシンポジウムが平成22年3月19日、新見市まなび広場にいみで開催された。

このシンポジウムは（社）岡山県畜産協会をはじめ県下畜産七団体による実行委員会と中国四国農政局等が主催で毎年この時期に開催しており、和牛シンポジウムとしては八回目を迎える。

今年のテーマは、「肉用牛危機を乗り越えよう～低コスト生産と繁殖性の向上～」。

文字通り肉用牛危機に対応した課題への答えを求めて県内外の生産者や関係者ら約三百名が参加した。

岡山県総合畜産センター立川優子技師と（株）ワコムアイティ谷忠幸マネージャーによるITを活用した分娩監視・発情検知システム、岡山県吉備中央町において和牛繁殖経営を営む孝本真二氏による事例発表に続き、埼玉県で家畜診療と和牛繁殖経営、コントラクターと幅広い活動を展開している（有）埼玉ベテリナリーリサーチ代表、中村陽二氏の講演が行われ、来場者は真剣に聞き入っていた。

また、昼食は恒例となった千屋牛の牛井や、「千屋牛物語」と名付けられた牛肉使用新製品の試食も行われ好評を博していた。

